



# 志楽小学校だより

舞鶴市立志楽小学校  
令和2年度学校だより  
第6号  
令和2年8月21日発行

## 目当てに向かって、力強く、粘り強く



校舎北に咲くピンクと白の木槿(むくげ)の花が、青い空、照り付ける日差しに映えます。子どもたちが汗をかきながら、元気な「おはようございます」の声とともに学校に戻ってきました。はにかむ笑顔に出会えたことが何よりうれしいです。

梅雨明けと同時に始まった夏休み。連日、猛暑が続いた3週間。新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐ「新しい生活様式」を取り入れながら、「我慢の夏休み」を過ごした子どもたちも多かったのではないのでしょうか。しかし、このような状況だからこそ、家族で一緒に料理をしたり、少し涼しい時間に散歩をしたり、おうちで過ごす楽しみを満喫した人がいるかもしれません。夏休みの間も子どもたちの体調管理に気を配っていただき、ありがとうございました

今年は戦後75年という節目の年です。新聞やテレビでは、8月6日の広島、9日の長崎に原爆が投下された日や15日の終戦の日に合わせて、連日特集を組み、報道をしていました。敗戦の色が濃くなり我慢の日々の中でも、楽しみを見つけながら普段の生活を送っていた人々が突然の空襲で亡くなったり、大けがをしたりした悲惨な戦争の様子を語り続けてこられた方々が高齢のために少なくなっていること、遺族会が存続を断念することが増えてきていることを知りました。今や、日本の人口の84.5%が戦後生まれだそうです。実際に戦争を体験したからこそ伝えられる思いを身近に聞けることが少なくなっています。戦後生まれの戦争を知らない私たちがその思いを受け継いでしっかりと後世に伝えていかなければ、と改めて考えさせられた夏でした。国語の教科書の「ちいちゃんのかげおくり」(3年)や「一つの花」(4年)は戦争を扱った作品です。子どもたちにその当時の人々の様子、思いを豊かに想像させるとともに、戦争の悲惨さ、命の大切さについて考えさせる機会としていきたいと思ひます。そして、今、このコロナ禍の中、お互いの命を守るためにできることは何か考え、実行させていきたいと思ひます。

例年より長い2学期が始まりました。

一人一人が目当てを持ち、その実現に向けて粘り強く取り組もう。一生懸命はかっこいい。うまくいかないことがあったら、それをチャンスと捉えて、試行錯誤しながら力強く前に進んでほしい、と始業式で話しました。子どもたちの「できた!」「がんばった!」が増えるよう、私たち教職員もがんばりたいと思ひます。

新型コロナウイルス感染症の拡大が止まらない日々が続いています。運動会をはじめとした学校行事については、保護者、地域の皆様にご理解ご協力をいただきながら、様々な対策を取り、できるかぎり行っていきたいと考えています。しかしながら、状況によっては、中止を決断しなければならないことも考えられます。6年生の修学旅行についても、残念ながら宿泊を伴わない形で行うこととなりました。厳しい条件の中ですが、子どもたちの力が付き、思い出に残る学校行事を教職員一丸となって子どもたちと一緒に作っていききたいと思ひます。どうか、ご理解いただきますようお願いいたします。

校長 小森 昌子  
教職員 一同



## 志楽川沿いの土手がスッキリ

学校北の志楽川は川の中も土手も、人の背丈を超える草で覆われていました。8月上旬に井木商事様が土手をきれいに刈り取っていただきました。ありがとうございました。いつも地域の皆様に支えられていることに感謝しています。

